

ウズベキスタン

主要データ

国名(英名)	ウズベキスタン共和国 (Republic of Uzbekistan)
面積(km ²)	447,400
海岸線延長(km)	0
人口(百万人)	31.1
人口密度(人/km ²)	69.5
GDP(bUS\$)	69.24
一人当りGDP(US\$)	2,225.98
主要鉱産物：鉱石	銅、金、ウラン、タングステン
主要鉱産物：地金	銅、亜鉛、金、モリブデン、テルル、セレン
鉱業管轄官庁	国家地質鉱物資源委員会(内閣管轄)(Goscomgeology)
鉱業関連政府機関	国家鉱量委員会(内閣管轄)、対外経済関係・投資・貿易省、経済省
ロイヤルティ	なし
鉱業法	地下資源法(1994年9月23日制定、No. 2018-XII (1995年1月1日施行)、2021年10月12日最終改正施行)、 貴金属・宝石法 (No. ZRU-710 2021年8月23日制定、2021年11月25日施行)
外資法	投資・投資活動法(2019年12月25日制定、No. ZRU-598(2020年1月27日施行) 2023年1月1日最終改正施行)
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	環境保護法(1992年12月9日制定、No.754-XII (1993年1月29日)、2021年10月12日最終改正施行) 廃棄物法(2002年4月5日制定、No.362-II (2002年5月10日)、2021年4月21日最終改正施行) (環境影響評価制度あり)
鉱業公社・国有企業	Navoiyuran社

1. 鉱業一般のトピックス

ウズベキスタンは、金、銅、亜鉛、モリブデン等、金属資源の採掘が行われている。ウランは、ウズベキスタンが世界市場において、一定の存在感を示す。一方、その他金属では数パーセントのレベルを超える大きなシェアの鉱種はなく、ウラン以外については、ウズベキスタンの動向がその鉱種の供給動向に大きな影響を与えることは考えにくい。

ウズベキスタン鉱業における主要企業は、AGMK社、NGMK社、Navoiyuran社である。AGMK社は金、銅、モリブデン、銀等、NGMK社は主に金、Navoiyuran社はウラン、レアアースを生産する。Navoiyuran社は国営企業、AGMK社及びNGMK社は株式会社となっているが、大統領令によりプロジェクトが行われていることを見ると、実質的には国営企業であると見られる。

ただし、AGMK社は株式の売却が予定されていることが報道され、同社の資料においても5%を国内で、25%までの範囲で海外で販売するとしている。

Navoiyuran社は採掘だけでなく、イエローケーキを製造している。同社Websiteによると、日本にも供給している。

2. 鉱業政策のトピックス

(1) 2022～2026年のウズベキスタン開発戦略

2022年1月28日に、2022～2026年のウズベキスタン開発戦略についての大統領令（2022年1月28日付 No. UP-60）が出された。同戦略の中で、ウズベキスタン経済発展のための目標が定められた。産業の生産性拡大、輸出振興、生産のローカリゼーション、汚職対策とともに、鉱業の発展も重視されている。銅が特に名前を挙げられていて、銅と銅を使用する製品の生産を倍増させる目標が掲げられている。また、金属を対象としたものだけではなく、探鉱を拡大することも目標に含まれ、民間や外資系企業の参加を明記している。

(2) 汚職対策

上記、大統領令にも記載されているが、汚職対策が大きな課題となっている。企業の広報においても、汚職対策についてのプレスリリースが多く、調達透明性確保等を推進しようとしている。

3. その他のトピックス

(1) NGMK社再編の実施

2021年にNGMK社の再編が決定されていたが、予定通り2022年1月1日より、再編が実施された。これまでに、NGMK社の一部であったウラン採掘・精錬事業が分離され、Navoiyuran社として独立した。

(2) Yoshlik I 銅鉱床開発

経済発展戦略でも、銅が触れられているが、AGMK社では、Yoshlik I 銅鉱床の開発が進められている。現在、第三銅選鉱場（MOF-3）等の建設が2023年の完成を目指し、進められている。

AGMK社資料では、2025年までの第一段階で290千tの電気銅、38tの金、203tの銀を製造するとしている。2028年までの第二段階では、400千tの電気銅、50tの金、270tの銀を製造するとしている（資料では早くても2023年稼働開始であり、第一段階と、第二段階がオーバーラップしているので、数値は参考程度）。

同鉱床の開発では、HGPRと複合選鉱・精錬技術（重力選鉱、浮遊選鉱、湿式製錬）を導入し、銅回収率85%にて60百万t/年を目指す。ウズベキスタンの国産技術だけでは、開発は困難であり、同開発では、WOOD社、Metso Outotec社、Wier社、Tyssen-Krupp社など、欧州企業の参加が目立つ。

(3) 仏Orano社とNavoiyuran社の提携強化

Navoy州において、Orano Mining社51%、地質・鉱物資源国家委員会49%出資のNurlikum Mining社がDjengeldiプロジェクトを進めてきたが、2022年11月には協力を進化させる協定に調印している。

(2023年2月14日 モスクワ事務所 小松 弘希)